

# Slovenia Monthly November 2019



## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年12月10日

### ～11月の主なポイント～

- 内政： 左派, 政府への閣外協力を解消
- 外政： パホル大統領, 国賓としてノルウェーを訪問
- 経済： 「スロベニアにおけるSociety5.0—次へのステップ」フォーラム開催  
EBRD, 欧州委, OECD, スロベニアの経済成長予測を下方修正
- 社会： 令和元年秋の外国人叙勲, スロベニアからペテルレ元首相とフランコ元スキー選手が受章  
UNESCO, リュブリャナにAI研究センターの設置を決定

## 政治

### 【内政】

#### ●左派, 政府への閣外協力を解消【6日】

6日, 左派(The Left)のメセツ党首は, 左派が議会に提出した健康保険関連法案に対して政府が修正案を提出したことを受けて, 政府との閣外協力関係を解消する旨発表した。メセツ党首は, 「政府は(左派が提出した法案への)修正案を出すことで法案を台無しにした。この修正案提出により, 政府は明白に左派との協力関係から手を引いた。今後, 左派は完全な野党となる」と述べたほか, 「政府は健康保険関連法案の合意達成に向けて左派と交渉を行う時間が2か月以上あったはずである。それにもかかわらず議会で審議が始まろうとしている日になって, 事前に我々が全く知らなかった修正案を提出してきた。左派は, シャレツ政権を政権の座から降ろすことを画策しているわけではないが, この健康保険関連法案以外にも, 個人所得税改革, 次年度予算案等の関連でも, 政府は左派との協力を行わないという姿勢が明らかになった。左派は, 政府との協力関係を継続したかったが, 問題は, 我々が何ヶ月間も無視されてきたことである」と述べた。

左派による閣外協力解消に対し, シャレツ首相は, 「左派は連立与党ではなく閣外協力を行ってきたのみであるので, 政府はこれまでも個別のプロジェクトや法案ごとに連立外の政党の支持を求めてきた。今後も, 各野党政党が, その政党にとって同意可能な政府の提案を支持することを期待しており, 特定の野党政党と(連立政権との間で)協力協定を結ぶ必要はないと考える」と述べたほか, 記者団より政権の任期を全うするつもりであるかと問われ, シャレツ首相は「現政権の任期を全うする予定であり, そうしない如何なる理由も見当たらない」と述べた。



シャレツ首相とメセツ党首  
(Photo: Nebojša Tejić/STA)

### ●年金者党(DeSUS)党首選、3名が立候補【27日】

来年1月17日に予定されている年金者党(DeSUS)党大会における党首選の候補者は3名となることが決定した。候補者は、エリヤヴェツ国防相(現党首)、ピヴェツ農林食糧相、法学者のストラジシャル氏の3名。党の審査委員会では、ピヴェツ農林食糧相については、検察が捜査している観光プロジェクト不正疑惑に関与している疑いがあり、また、ストラジシャル氏については党首選立候補手続が開始された後に入党したことが問題視されたが、最終的に党執行委員会は両名の党首選立候補を承認した。

### ●2020年及び21年予算案審議【22日、28日】

22日、国民議会(下院)は2020年及び2021年の予算案に関する投票を行い、賛成多数で可決した。11月6日に左派が政府との閣外協力を解消したため、議会における予算の採択が危ぶまれていたが、投票に際しては、連立与党のほか、野党国民党(SNS)及び少数民族枠選出議員が賛成票を投じた。2020年予算案は歳入107億7千万ユーロ、歳出103億6千万ユーロ、2021年予算案は歳入111億ユーロ、歳出104億5千万ユーロを見込んでいる。

28日、国民評議会(上院)は、2020年及び21年予算案に拒否権を発動した。国民評議会議員は、地方自治体向け予算が十分に確保されていない点を拒否権発動の理由として上げた。国民評議会が拒否権を発動したことで、予算案は国民議会に差し戻されることとなり、国民議会における再投票で議員定数の過半数である46票以上の賛成票を得ることができれば予算成立となる。

### 【外政】

#### ●パホル大統領、ノルウェーを訪問【6日～7日】

パホル大統領は国賓としてノルウェーを訪問し、6日、ハラルド5世国王と会談した。この訪問に際し、ハラルド国王はパホル大統領に外国国家元首に与えられる最高等級の勲章「Grand Cross of Royal Norwegian Order of Saint Olav」を授けたのに対し、パホル大統領はホーコン王太子に、国際関係における貢献、気候変動対策及び二国間関係促進への功績を讃えて、勲章「Gold Order of Merit」を授けた。また、ハラルド国王及びパホル大統領は、スロベニアの現代工芸デザインの展示会の開会式に出席したほか、パホル大統領は、トロエン国会議長と会談し、良好な二国間関係を確認した。

7日、パホル大統領は、ソールベルグ・ノルウェー首相と会談した。両者は、スロベニアとノルウェーは多国間協調主義、法の支配、人権等を重視している旨を確認したほか、二国間経済関係については、環境技術、AI、ロボティクス、ICT、観光等の多くの分野で協力促進の可能性があると一致した。その他、

両者は西バルカン情勢についても意見交換を行った。また、パホル大統領は、研究機関「SINTEF」で開催されたビジネスセミナーに参加した。同セミナーでは、スロベニアのヨジェフ・ステファン研究所とSINTEFが両機関の協力に関する覚書(MOU)に署名を行った。



(Photo: 大統領HP, Nebojša Tejić/STA)

#### ●ツェラル外相、ヨルダンを訪問【7日】

ツェラル外相は、ヨルダンを公式訪問し、サファディ・ヨルダン外務・移民大臣と会談した。スロベニアの外務大臣のヨルダン訪問は、約20年振りとなる。両大臣は、テロ対策、開発援助、地中海連合における協力、シリア情勢等について意見交換を行い、ツェラル外相は「ヨルダンが安定、平和及び宗教的寛容の柱である」と評価し、国連及び安保理決議の下、シリア危機の解決に向けた政治的努力を引き続き支持する旨述べた。サファディ外相は、両国は外交政策において、多国間主義及び水資源の保護等に関し共通の見解を有していると述べ、両大臣は、今後、農業、エネルギー、IT、通信、ロジスティクス、薬品及び観光の分野で協力の可能性があるとの見解で一致した。滞在中、ツェラル外相は、ヨルダンの両院議長、観光大臣とも会談したほか、ヨルダン在住のスロベニア人とも懇談を行った。

#### ●EU6か国の外相が欧州委員会委員長宛に共同書簡を发出【19日】

ツェラル外相を含むEU6か国の外相が、ユンカー欧州委員会委員長宛に、西バルカン諸国へのEU拡大に関する共同書簡を发出した。同書簡に署名したのは、ツェラル外相のほか、イタリア、オーストリア、スロバキア、チェコ、ポーランドの外相で、同書簡では、欧州委員会に対し、西バルカン諸国の改革及び欧州統合努力を支援するための手段として、統合プロセスの有効性強化のための具体的提案を行うよう呼びかけたほか、統合プロセスは遅延なしに継続される必要があり、EUが地域において効果的にEUの利益を守ることを望むのであれば、西バルカン諸国を完全なEU加盟国として受け入れる以外に実行可能な代替案は存在しない旨記されている。

### ●旧ユーゴスラビア承継問題【19日】

スロベニア外務省は、スロベニアを含む旧ユーゴスラビア承継国がドイツのボンに所在する旧ユーゴスラビア大使館物件を約370万ユーロで売却した旨を発表した。売却額は承継国各国に分配され、スロベニアは約50万ユーロを得る予定。同物件は、40年前に建てられ、過去20年以上使用されていなかったことから、建物の状態は劣悪であるとのこと。

### ●パホル大統領、ミニ・シェンゲン構想を支持【23日】

パホル大統領は、セルビアのノヴィ・サドで開催された西バルカン地域ユース・フォーラムに、ブチッチ・セルビア大統領、オエンダロフスキ・北マケドニア大統領とともに出席した。同フォーラムにおいて、パホル大統領は、西バルカン諸国へのEU拡大及び同地域における「ミニ・シェンゲン」創設支持を表明し、ミニ・シェンゲン構想が成功するためには地域各国の間で信頼が強化されることが重要であると述べたほか、フォーラムに参加した若者に対し、地域の平和、安定、将来のために若者は重要な役割を担っていると述べた。また、パホル大統領は、ブチッチ大統領及びパンダロフスキ大統領と会談を行った。



(Photo: 大統領府)

### ●アルバニア地震:政府、援助を決定【28日】

政府は、11月26日にアルバニアで発生した地震の被害に対する緊急支援として、12万6千ユーロ相当の支援を行うことを決定した。政府は、アルバニア側からの要請を受けて、テント、ベッド、毛布、寝袋、発電機等の物資を送る予定。また、スロベニア赤十字社は、災害支援として6千ユーロをアルバニア赤十字社に送金した。11月28日時点で、地震による死者は41人、負傷者は650人以上とされており、赤十字社によると、被災者数は約10万人、そのうち約3万人が緊急支援を必要としている。

## 「スロベニアにおける Society5.0—次へのステップ」フォーラム開催

11月1日から4日にかけて、赤石浩一内閣官房イノベーション総括官がスロベニアを訪問し、4日、当館及びスロベニア日本ビジネス協会の共催、スロベニア企業BTC及びELESの協力の下、リュブリャナ市内で開催された「スロベニアにおける Society5.0—次へのステップ」フォーラム<sup>(注)</sup>で基調講演を行いました。



フォーラムには多くの参加者が集まった

同フォーラムでは、ピカロ副首相兼教育・科学・スポーツ大臣、吉田大使、メルヴァルELES社長、メルマルBTC会長及びコウシュツア上院議長が開会の挨拶を行った後、赤石総括官が「Society5.0 とスマートシティ：現状とグローバル・アライアンス」と題した基調講演を行い、日本及び世界における取組を紹介しました。また、市川・多摩大学客員教授が、スロベニアでの Society5.0 の導入に関する考察について発表し、その後、赤石総括官、市川教授、パピッチ・リュブリャナ大学総長、サレツル経済開発・技術省産業・イノベーション・技術課長及びクラリBTC社長によるパネルディスカッションが行われました。

会場には、約100名のスロベニア政府、企業、学術研究等の関係者が集まり、講演に熱心に聞き入っている姿が見られ、また、質疑応答では活発な意見交換が行われました。



パネルディスカッションの様子

(注)このフォーラムは、本年2月に開催された「Society5.0」フォーラムの第二弾です。2月に開催されたフォーラムについては、当館ホームページに掲載の「スロベニアマンスリー」2019年2月号をご覧ください。



基調講演の様子

また、11日、当地主要紙「Finance」は、オンライン版において、赤石総括官に対するインタビューの記事を掲載したところ、概要は以下のとおりです。

(記者)貴方の肩書きは、「内閣官房イノベーション総括官」とのことだが、これは何を意味するのか。

(明石総括官)安倍総理及び安倍内閣は、日本の経済発展及び国際化のために多くのことを成し遂げてきたが、一つの弱点はイノベーションであった。そのため、本年、安倍総理は、新しいポストを設置し、そこに私が任命された。私の職務は、日本におけるイノベーション促進であり、基礎教育、大学制度の改革、起業家制度、スマートシティ、AI開発戦略及びデータベースの使用等の分野について任されている。

(記者)それらの取組の中で、「Society5.0」のコンセプトはどのように位置づけられているのか。

(明石総括官)「Society5.0」は、これらの取組を包括するコンセプト。日本政府の5か年計画では、技術を大いに活用しつつも、人間中心の「5.0」社会を目指している。全てのイノベーション及びR&D事業について、「Society5.0」の実現に焦点が当てられている。

(記者)何故スロベニアとの協力に関心があるのか。

(明石総括官)スロベニアは、我々のEUプロジェクトにおいて、多大な支援者となり得る。「Society5.0」に関し、日本とEUは、政策面で多くの共通点を有しており、このコンセプトの導入で協働することができるが、そこでスロベニアは具体的な案件の実施において大変重要な役割を担うことができるだろう。

## 経済

### 【経済一般、指標・統計】

#### ●スロベニア企業、第二回中国国際輸入博覧会(CIIE)に出展【4日】

第二回中国国際輸入博覧会(CIIE)が上海で開催され、スロベニア投資促進庁(SPIRIT)によると、スロベニア企業11社が出展し、開会式典にはポチヴァルシエク経済開発・技術大臣が出席した。同博覧会を前に、ツーデルマンSPIRIT長官は、スロベニアは博覧会において最先端技術とともに、2022年に北京で開催される冬季オリンピックを前にしてウインタースポーツ関連の企業の紹介を行う予定であると述べた。

#### ●研究開発費、2013年以降初めて増加【5日】

スロベニア統計局は、2018年の研究開発費に関する暫定統計結果を発表した。それによると、スロベニアの研究開発費総額(GERD)は8億9240万ユーロで前年比11.2%増となり、2013年以降初めて増加したことが明らかになった。また、研究開発費総額の対GDP比は2.0%で、前年の1.9%から増加した。研究主体別の使用状況で見ると、企業が6億6211万ユーロで全体の74.2%を占めており、公的機関が1億2093万ユーロ(13.6%)、高等教育機関が1億636万ユーロ(11.9%)、非営利団体が298万ユーロ(0.3%)となった。一方、研究費支出額を見ると、企業が5億5817万ユーロ(62.5%)、公的機関が2億1170万ユーロ(23.7%)、海外が1億1705万ユーロ(13.1%)となり、高等教育機関と非営利団体の支出は合計しても1%に満たないことがわかった。

#### ●EBRD、欧州委、OECD、スロベニアの経済成長予測を下方修正【6日、7日、21日】

欧州復興開発銀行(EBRD)、欧州委員会、経済協力開発機構(OECD)は、スロベニアの経済成長予測の下方修正を行った。2019年予測について、EBRDは3.3%から3%、欧州委員会は3.2%から2.6%、OECDは3.4%から3.1%にそれぞれ引き下げた。11月末時点での各機関による2019年及び2020年のスロベニアの経済成長予測は以下のとおりとなっている。

機関	2019年	2020年
IMAD <sup>(注)</sup>	2.8%	3.0%
IMF	2.9%	2.9%
EBRD	3.0%	2.8%
欧州委	2.6%	2.7%
OECD	3.1%	3.0%

(注)IMADはスロベニアのマクロ経済分析発展研究所の略称。

### GRAND SEIKO, スロベニア上陸

11月26日、吉田大使は、スロベニアで初めて販売されるGRAND SEIKOシリーズのPRイベントに出席し、挨拶を行いました。

GRAND SEIKOを取り扱うのは、リュブリャナ市中心のプレシェーレン広場付近に位置し、セイコーウォッチ社と15年以上の協力関係にある時計店「Stentime」。同社のマフコヴェツ社長は、「今回、日本の時計技術の最高峰であるGRAND SEIKOシリーズの販売が実現し、関係者に心から感謝したい」と挨拶しました。



テストルト・セイコードイツ社広報営業部長は、「今回、このようにスロベニアにおいて販路を拡大でき、非常に光栄である。スロベニアの人々は、技術の発展においても文化においても、日本と多くの共通した価値観を持っている。多くのスロベニア人の方々にGRAND SEIKOを楽しんでいただきたい」と述べました。

最後に、吉田大使より、「日本製品が、このようにスロベニアで歓迎されることは非常に喜ばしい。今後とも、GRAND SEIKOを含め日本製の製品を買って頂きたい」と挨拶しました。



## ●国民議会、書籍・出版物に対する減税法案を可決【22日】

国民議会は、書籍・出版物に対する付加価値税(VAT)の減税法案を可決した。今回の減税は、書籍、新聞、雑誌等が対象となり、現行の9.5%から5%に引き下げられるほか、これまで22%のVATが適用されていた電子媒体についても5%に引き下げられる。減税措置は2020年1月より適用される予定。年金者党(DeSUS)のポルナル議員は、長期的な目標は書籍・出版物に対する税率を0%にすることだが、現状のEU法ではそれが認められていないと述べた。

## 【企業、産業の動向】

### ●スロベニア郵便のストライキ【11日～13日】

11日、国営スロベニア郵便職員は、ストライキを開始した。労働組合は、現在の労働環境及び業務量に照らして賃金が低すぎるとして、10%の賃上げ及び300名の従業員増加を要求していたが、会社側は2019年及び2020年の賃上げについては本年2月にすでに労働組合との間で合意されているとして、組合側の提案を拒否していた。スロベニア郵便の職員がストライキを実施するのは、今回が初めてのこと。

12日夜、会社側と組合はストライキ終了の合意に達した。協議の結果、会社側は2020年1月及び6月の賃上げ、最低賃金の引上げ、2020年の従業員増加等についても合意し、ストライキは終了した。

### ●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業、入札公告開始【14日】

コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業を管理運営する国営2TDK社は、同事業の入札公告を行った。同事業の入札はディヴァチャ～チュルニ・カル間、チュルニ・カル～コペル間の2区間に分けて行われ、入札期限は12月20日。2TDK社によると、異議申し立てが行われず順調に手続が進めば、落札者との契約及び建設開始は2020年後半を予定している。

### ●ゴレニェ社、子会社の売却を決定【19日】

家電大手ゴレニェ社は、セルビアの子会社ゴレニェ・ティキ社(小型給油機製造)をスウェーデンの「Nibe Industrier」社に売却することを決定した。ゴレニェ・ティキ社は、ゴレニェ・グループの一員として1951年に設立され、スロベニアで30名、セルビアで520名を雇用している。売却額については公表されておらず、また、今後、当局が独占禁止法に違反していないか審査し、問題がなければ売却が完了する。

## 発見！スロベニア

### スロベニアの魅力を発信する 英語の総合情報サイトがオープン

政府広報局は、外国人を対象としたスロベニアの魅力を発信する英語の総合情報サイト「slovenia.si」を開設した旨を発表しました。

これまでスロベニア観光の魅力を伝える「slovenia.info」が有名でしたが、新たに開設された「slovenia.si」は観光に留まらず、スロベニアの歴史、特徴、芸術、文化、ビジネス等、幅広い分野を網羅する総合情報サイトになっています。

同サイトでは、各界で活躍するスロベニア人の活動についても紹介しているほか、安川電機ロボット工場の投資に関する紹介記事も掲載されています。

ご関心のある方は一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



新設された総合情報サイト「slovenia.si」  
(www.slovenia.si)

有益な情報が多数掲載されている「slovenia.si」、実は当館発行のスロベニアマンスリーとも競合関係にあります。

今後、同サイトのコンテンツが充実していくにつれて、マンスリーからスロベニアを紹介するコラムが消える日が近い？かもしれません。



観光情報サイト「slovenia.info」も健在！  
(www.slovenia.info)

## 軍事・治安情勢・危険情報

### ●スロベニアとイタリア、国境合同パトロールを延長【4日】

スロベニアとイタリアの警察当局は、両国による国境合同パトロールの期間を延長することで合意した。合同パトロールは不法移民対策の一環として本年7月に開始され、両国当局は、協力が効果的であると判断し、期間の延長に伴い、パトロール回数を増やすことについても一致した。

## 社会・文化・スポーツ

### ●令和元年秋の外国人叙勲、スロベニアからペテルレ元首相とフランコ元スキー選手が受章【3日】

3日、日本政府は令和元年秋の外国人叙勲受章者を発表し、スロベニアからはアロイズ・ペテルレ元首相及びユーリ・フランコ元スキー選手が受章した。ペテルレ氏は、日本・スロベニア間の関係強化・友好親善及び日本・EU間の関係強化に寄与した功績が認められて旭日大綬章を受章、フランコ氏は、スキーを通じた日本・スロベニア間の交流及び友好親善に寄与した功績が認められて旭日単光章を受章した。

### ●プラスチック包装ごみのリサイクル率、スロベニアはEU第4位【5日】

EU統計局(Eurostat)は、2017年のデータを基に、プラスチック包装ごみの再利用に関する統計結果を発表した。同統計によると、EU内で最も再利用率が高いのはリトアニア(74%)で、ブルガリア(65%)、キプロス(62%)が続く。スロベニアは再利用率60%で4位となり、EU平均の42%を大幅に上回っていることが明らかになった。スロベニアでは2017年に5万1644トンのプラスチック包装ごみが出され、そのうち3万275トンが再利用されている。なお、EUで最も利用率が低かったのはマルタ(24%)で、フィンランド及びフランス(ともに27%)が続いている。

### ●スロベニア版ミシュラン・ガイド、来年3月に発行予定【12日】

世界的に有名なミシュラン・レストラン・ガイドのスロベニア版が来年3月に発行することが発表された。記者会見において、スロベニア観光協会のパク会長は、「ミシュランが、スロベニアを、豊かな自然遺産、高品質の食材、才能豊かなシェフが揃う国として認めたことを光栄に思う」と述べた。観光協会は、今後2年間、ミシュランの協力の下、年間42万5千ユーロを広報活動促進に充てる予定。

### ●スロベニア、旅行者にとって最も安全な国との評価【18日】

国際NGO「SOS International」が公表した2020年世界リスクマップにおいて、スロベニアは旅行者にとって最も安全な国のひとつとして評価された。同マップは、安全性(security)、医療リスク(medical risks)、交通安全(road safety)の3項目において、それぞれ5段階評価を行っており、スロベニアは3項目全てにおいて最も高い安全性の評価を得ている。なお、最も危険度が高いとされているのは、リビア、ソマリア、アフガニスタン、ベネズエラの4か国であった。

### ●UNESCO、リュブリャナにAI研究センターの設置を決定【25日】

国際連合教育科学文化機関(UNESCO)は、25日にパリで行われた会合において、リュブリャナに国際人工知能(AI)研究センターを設置することを決定した。この決定を受けて、スロベニア教育・科学・スポーツ省は、「センター設立はスロベニアの研究者の功績と同時に、政府とUNESCOの間の良好な協力関係が認められた証である」旨のコメントを発表した。同センターはUNESCOが支援する初のAI研究施設となる予定で、今後、教育・科学・スポーツ省とUNESCOの間で合意書に署名され、2020年にセンターが設立される見込み。教育・科学・スポーツ省によると、すでに多くの国・機関より同センターとの協力に関心が寄せられている。



(Photo: www.sloveniatimes.com)

## スロベニア紀行

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！  
今回は、毎年ヨーロッパ転戦の締めめのレースとなっているスロベニアでのレースの話。

この紀行でも度々登場しているスロベニアマウンテンランニングの仕掛け人Tomoさんが主催する「シュマルナ・ゴーラ（Šmarna Gora）」は、今年で40周年。

伝統あるレースで、大会前夜のセレモニーでは毎年海外選手が招かれ、食事をともにし、そしてそこでゼッケンを受け取ります。その際にTomoさん自身から発表がありました。今後は後継者として若手のディレクターを任命し、来年以降は運営を任せるとのこと。そしてその後はTomoさんに沢山のギフトが贈られ、レース前夜ではありますが、とても和やかな夕食会となりました。



その一方で、毎年7月末に行われていた「グリントヴェツ（Grintovec）」という山岳レースはとても人気のあるレースだったのですが、20周年の今年を最後に終了となりました。引き際として節目の年である今年が丁度良いと考えられたようです。大会自体は今後行われませんが、大会を主宰していたPapezさん率いるチームはスロベニアで1、2を誇る有力チーム。

今後は大会運営以外の形でスロベニアのマウンテンランニングシーンを盛り上げるはずです。

スロベニアやスポーツに限ったことではないですが、世代交代をいかにスムーズに行なっていくかがとても重要だと改めて感じさせられました。ここ数年、スロベニアでも山岳系のレースがどんどん増えています。チームやコミュニティ、地域性を活かし、いかに人気大会に成長させるか、また地域に定着させられるかが重要です。1つ1つのコミュニティは決して大きくないですが、だからこそ、顔が見えます。そういったコミュニティをきちんと作っているから世代交代がスムーズに行っている印象を強く受けます。決して人口は多くないですが、スロベニアは自然が豊かでウィンタースポーツをはじめ多くの選手が活躍しています。来年の東京オリンピックでもクライミングなどの種目できっと活躍をするはずです。



来年は今までに出たことのない大会にも出場すべく、スケジュールを調整しています。新たな場所とレースに足を運ぶことで、更なるスロベニアの魅力を紹介できるように努めていきます。

次号は年明けの更新となりますので、少し早いですが良い年をお迎えください。  
それでは、また。

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～19 マウンテンランニング日本代表

## スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

[http://www.si.emb-japan.go.jp/Living\\_in\\_Japan.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html)

### 【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

●国境を越えて旅行する場合は、旅券を携行してください。

シェンゲン協定参加国間の移動では、空港や国境での出入国審査が廃止されているために、事実上日本人も旅券の審査なく他国へ入国できますが、旅券を携行していなかったことから罰金も科された事例もありますので、国境を越えて旅行する場合は、必ず旅券を携行して下さい。

●海外における麻しん(はしか)・風しんに関する注意喚起

世界各地で、麻しん・風しんの感染例が多く報告されています。海外では麻しん・風しんに感染するリスクがあることを認識し、麻しん・風しんの予防接種を2回受けていない方は受けることを検討してください。国内では、輸入例を発端とした集団感染も発生しています。

[https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/00\\_000145.html](https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000145.html)

### 【広報文化班からのお知らせ】

●着物のレクチャー・デモンストレーションを開催いたします。

2020年1月27日から31日の間、着物着付け師である今泉あい子先生をお迎えし、着物の着付けレクチャー・デモンストレーションを各地で開催いたします。詳しい日時場所などは現在調整中ですが、追って当館ホームページ、フェイスブックでアナウンスいたします。お楽しみに！

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Ambassy.of.Japan.in.Slovenia/>